

平成 21 年

社 会

(40 分 80 点)

注 意

- 1 試験開始のチャイムが鳴るまで、表紙を開いてはいけません。
- 2 試験開始のチャイムが鳴ったら、まず解答用紙の決められた所に受験番号を書き、問題のページ数を確かめてから始めなさい。
- 3 問題は 14 ページまであります。ページの不足や乱れがあったら、だまって手をあげなさい。
- 4 印刷のはっきりしていない所があったら、だまって手をあげなさい。
- 5 試験終了^{しゅうりょう}のチャイムが鳴ったら、すぐ鉛筆^{えんぴつ}を置き、解答用紙を表を上にして問題用紙の上に置きなさい。

問題 現在わたしたちが生活している社会について学ぶとき、昔の社会や別の地域の社会と比べてみると、多くの違いに気づかされ、またさまざまなすぐれた点や問題点がみえてきます。このことをふまえて、以下の2つの問題に答えなさい。

1 政治への関わり方と税の仕組みに関する次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

現在の日本社会では、日本国憲法を中心としたさまざまな法律があり、それらにしたがって政治が行われ、人々の生活が守られています。そして、日本国憲法の下で日本国民は、税を納める義務を負うと同時に、(A)。

しかし、このような権利は、昔から同じように認められていたわけではありません。たとえば江戸時代は、国内で安定した状態が長く続きましたが、現在と異なる特有の法があり、(B)。その後明治時代に入り、政府の集める税金の中心が、土地の価格を基準とした地租という税に変わり、①大日本帝国憲法が制定され、議会も開かれるようになると、(C)。

もっとも、②政治に参加する国民の権利が憲法で保障されている今日においても、国民の意見を国の政治に反映させる方法については、さまざまな議論があります。人々からどのように税を集めることが望ましいのかについても同様です。政治への関わり方と税の仕組みをより良いものにするため、過去の歴史や外国の状況と比べるなどしながら、現在も議論が重ねられています。

問 1 空欄 (A) ~ (C) に入れて文章を完成させるのに最も適当なものを、次のア~カの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 身分に応じて政治への参加のしかたが異なり、税を納めた人々のみが直接法律の決定に参加する権利が認められる社会へと変わっていききました
- イ 納税額に応じて政治への参加のしかたが決まる社会へと変化していききました
- ウ すべての成人が、直接法律の決定に参加する権利が認められています
- エ すべての成人が、国の政治を行う代表者を選ぶ権利が認められています
- オ 身分に応じて納めるべき税の種類が異なり、その税の負担の重さに応じて国の政治への参加のしかたが異なりました
- カ 身分に応じて政治への参加のしかたが異なり、税を納めていても国の政治に参加できない人々もいました

問 2 下線部①に関して、次の2つの史料Ⅰ・Ⅱは、大日本帝国憲法作成の中心的な政治家であった伊藤博文の考えが述べられたものです。この史料には、なぜ大日本帝国憲法がつくられる必要があったのか、ということについての伊藤博文の考えが示されています。その考えとはどのようなものですか、説明しなさい。

- Ⅰ. 日本の法律がしっかりしていて、日本の政治がよいものであること・・・特に外国人だからという理由で嫌い悪むという考えのないことを明らかに認めたので、条約改正が出来たのです。
- Ⅱ. (もし幕末維新期に) 外交のことが起こらなかったなら・・・憲法政治とはならなかったかも知れません。

問 3 下線部②に関して、表 1 は 2007 年の参議院選挙における選挙区ごとのようすについて示したものです。これをみて、次の問いに答えなさい。

なお、ここでの「選挙区」は、47 都道府県ごとに分かれています。それぞれの選挙区の有権者が 1 人 1 票ずつ立候補者に投票し、得票数の多い者から順に、定数分だけ当選者が出る仕組みになっています。また、この問題では、「有権者（選挙権を持っている人）の投票した票が、当選者の得票となった場合に、有権者の意見が国政に反映していると考える」こととします。

表 1 2007 年の参議院選挙における選挙区（選挙の単位）ごとのようす

選挙区	有権者数 (人)	定数 (人)	投票率 (%)	投票数 a	当選者の得票数の合計 b	b/a (%)
ア	10,437,556	5	57.9	5,909,515	4,038,337	68.3
イ	7,183,647	3	56.3	3,977,233	2,688,151	67.6
ウ	1,986,188	2	64.6	1,257,181	759,398	60.4
エ	1,692,385	2	61.5	1,010,799	911,497	90.2
オ	1,127,120	1	63.4	699,424	437,814	62.6
カ	995,038	1	63.0	611,318	199,523	32.6
キ	492,867	1	67.7	326,993	168,380	51.5

第 21 回参議院議員通常選挙 [2007 (平成 19) 年] に関する総務省統計局資料より作成

(注) (1) 「定数」は選挙区ごとの議員定数。

(2) 「b/a」とは、「当選者の得票数の合計 b」を「投票数 a」で割った数値。

(1) 選挙区ア～キの中で比べたとき、1 票の格差（有権者数を定数で割った数値の違い）は最大で何倍くらいでしょうか。最も近い数値を、次の 5 つの中から答えなさい。

2.1 倍 2.8 倍 3.5 倍 4.2 倍 4.9 倍

(2) 投票した有権者の過半数の意見が国政に反映していない選挙区が 1 つあります。当てはまる選挙区を、ア～キの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

(3) 有権者の過半数の意見が国政に反映された選挙区が 1 つあります。当てはまる選挙区を、ア～キの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

(4) 選挙区ア～キを比べると、有権者の意見が国政に反映される程度と定数との間に、ある関係が読み取れます。それはどのような関係でしょうか。次の文章Ⅰ・Ⅱを読み、そのような関係になる理由にふれながら、説明しなさい。

Ⅰ. 全 47 選挙区のなか、定数 1 名の選挙区で b/a の数値が一番高かったのがオ、定数 2 名以上の選挙区で b/a の数値が一番低かったのがウでした。

Ⅱ. すべての選挙区に複数の候補者が立ち、その多くで、政治の意見を異にする候補者が、激しい選挙活動をくり広げました。

- 2 東海道を例とした、人との移動に関する次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

1603 年、幕府を開いた徳川家康は、江戸の街づくりにあたり、まず日本橋を五街道の起点と定め、江戸と地方を結ぶ交通路の整備を行いました。なかでも東海道は、東日本と西日本を結ぶ上で重要であり、五街道の筆頭に位置づけられました。

①そもそも東海道は、その昔、都のおかれた奈良・京都から東へ向かう太平洋沿岸の幹線交通路として、奈良時代以前から整備されてきました。やがて、12 世紀末に鎌倉幕府が開かれると、京都と鎌倉を結ぶ東海道は、さらに交通量が増え、沿道には宿場が整備されました。②室町時代になると、これらの宿場の中には守護の館が置かれたところもあり、そうした宿場町には京都の文化が伝わって「小京都」とよばれる都市になったところもありました。

③江戸時代の東海道には、箱根の峠や、海上を渡る七里の渡などの難所があり、また、大井川や天竜川などの大河川も多くありました。しかし、④参勤交代をする大名の半数以上が東海道を利用し、ほかの街道に比べて公家や幕府の役人、庶民の行き来もはるかに盛んでした。宿場の施設は次第に整備され、旅行者への便が改善される一方、沿道ではその土地の特産物も売られました。19 世紀に入ると、伊勢神宮をはじめ、⑤奈良・京都・大坂などの寺社詣や湯治（温泉に入って病気を治療すること）に行く旅行者で、非常ににぎわいをみせました。

明治時代になると、政府は軍事輸送の効率をあげるために、鉄道の建設を進めました。その結果、1889 年に東海道本線が他の地方に先がけて開通しました。その後、産業の発達にともなって、鉄道の役割はさらに大きくなり、線路の延長、輸送力の増大など進歩をとげました。戦後、高度経済成長のもとで自動車普及し、近年では航空機も身近な存在となり、⑥交通や輸送の手段が増え、ますます便利になっています。かつて、約 2 週間かかった江戸から京都までの道のりは、2008 年現在、新幹線「のぞみ」が約 2 時間 20 分で結んでいます。

- 問 1 下線部①に関して、奈良時代には、関東・東北地方の国々からの税は、主に東海道を通して都に運ばれたと考えられます。どのようにして運ばれたのでしょうか。最も適当なものを、次のア～エの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

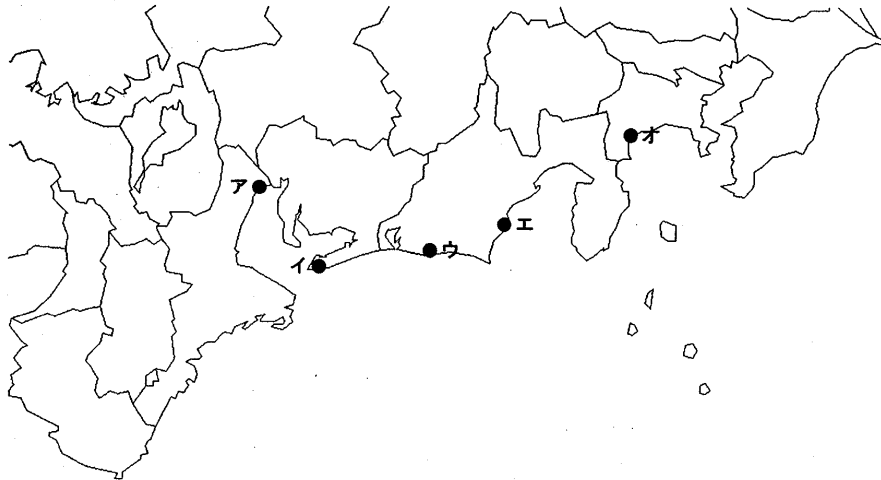
- ア 税の徴収を担当した地方の豪族の手によって、都に運ばれた。
- イ 税の徴収を担当した中央の役人の手によって、都に運ばれた。
- ウ 税を納める成年男子の中から選ばれた者の手によって、都に運ばれた。
- エ 馬借とよばれた専門の運送業者の手によって、都に運ばれた。

- 問 2 下線部②に関して、室町幕府が京都に開かれると、貴族（公家）や僧侶だけでなく、将軍や「大名」とよばれた有力な守護をはじめとする武士の多くも、京都で生活するようになりました。将軍に仕えた武士が自分の領地に構えた館は、将軍の御所をまねしてつくられたといわれており、応仁の乱以前からすでに、京都の文化が地方に伝わっていたことがわかります。その背景には、どのようなことがあったと考えられますか。理由として最も適当なものを、次のア～エの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

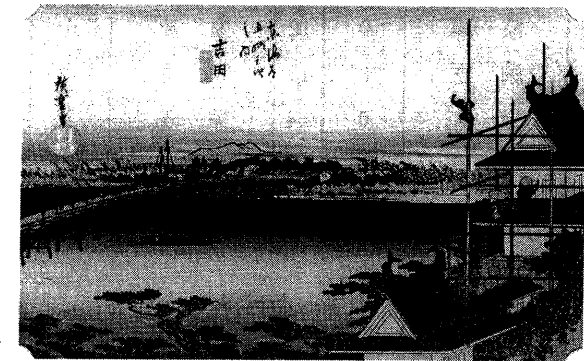
- ア 京都の文化を吸収した武士が、自分の領地と京都を往復していた。
- イ 京都で起こった戦乱を避けた貴族（公家）や僧侶が、地方に下っていた。
- ウ 将軍の命令により、地方の武士は京都の文化にならわなければならなかった。
- エ 「洛中洛外図屏風」のような京都のようすを描いた屏風が、地方に広まっていた。

問3 下線部③に関して、次の問いに答えなさい。

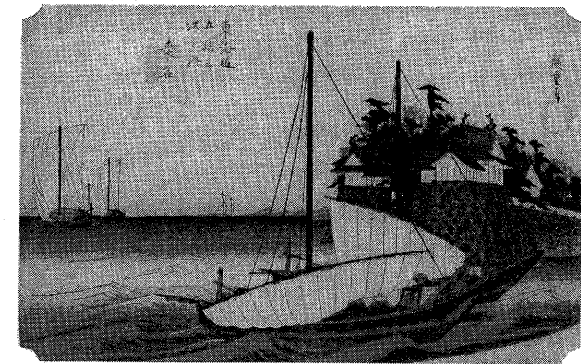
- (1) 次の写真A～Cは、江戸時代の東海道のようなすを描いた絵画です。これらの絵画を描いた作者の名前を答えなさい。
- (2) 写真Aの河川では、交通の便が悪くなるにもかかわらず、橋を架けることや渡し舟は、認められませんでした。それはなぜですか、説明しなさい。
- (3) 七里の渡と大井川を描いた絵画を、次の写真A～Cの中から、それぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。また、それらの位置を、下の地図のア～オの中から、それぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。



写真A



写真B



写真C

問 4 下線部④に関して、将軍も東海道を利用して、時期によりたびたび江戸と京都を往復していました。表 2 は、江戸幕府の歴代将軍の上洛（京都へ上ること）回数をまとめたものです。これをみて、次の問いに答えなさい。

表 2 江戸幕府の歴代将軍の上洛回数

代	将 軍 名	回数	代	将 軍 名	回数
1	家 康	8	9	家 重	0
2	秀 忠	7	10	家 治	0
3	家 光	3	11	家 斉	0
4	家 綱	0	12	家 慶	0
5	綱 吉	0	13	家 定	0
6	家 宣	0	14	家 茂	3
7	家 継	0	15	慶 喜	—
8	吉 宗	0			

- (注) (1) 家康は将軍になる前の 1601 年から退いた後の 1616 年までの回数を示す。
 (2) 秀忠は将軍になった 1605 年から退いた後の 1632 年までの回数を示す。
 (3) 家光から家茂までは将軍在位中の回数を示す。なお、家光の在位期間は 1623～51 年、家茂は 1858～66 年である。
 (4) 慶喜は将軍在位中、常に京都に滞在したため、回数を示さない。
 (5) 家康・秀忠の上洛回数には、伏見（現在の京都市伏見区）へ行った回数も含む。

- (1) 表 2 をみると、家康から家光までの将軍がたびたび上洛していたことがわかりますが、なぜ彼らは上洛する必要があったのでしょうか。考えられる理由を、次の文章Ⅰ～Ⅳをふまえて説明しなさい。

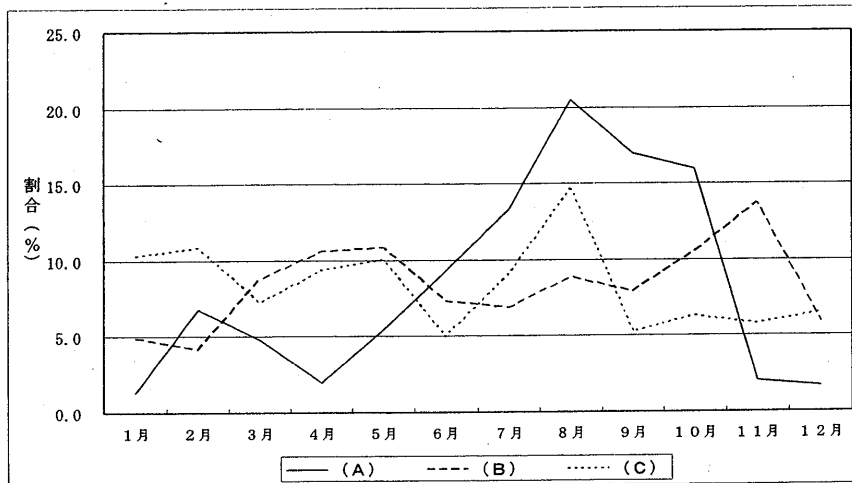
- Ⅰ. 1615・1616 年の 2 度の戦いを経て、家康は大坂城の豊臣氏を滅ぼしました。
 Ⅱ. 1616 年、江戸幕府は朝廷に対し、「禁中 並 公家諸法度」を制定して、天皇を始めとする朝廷の人々を守るべき法を定めました。
 Ⅲ. 1619 年、秀忠は広島藩の外様大名福島氏を改易（領地を取り上げること）にしました。
 Ⅳ. 1634 年、家光は全国の諸大名に軍事動員をかけ、およそ 30 万人の軍勢を率いて上洛しました。

- (2) 表 2 をみると、家綱以降、将軍が上洛することはなくなったことがわかります。将軍が再び上洛するようになったのは、14 代将軍家茂のころからです。江戸時代を通じた将軍の上洛の有無と、江戸幕府の支配力との関係はどのように考えられますか、説明しなさい。

問 5 下線部⑤に関して、19 世紀に入って一般的になった旅行は、現在ではより人々の生活に身近なものとなり、観光は一大産業となっています。

表 3 は、現在、観光客数がいずれも年間 100 万人を越える、京都市・静岡県熱海市・北海道斜里郡斜里町の 3 つの地域について、年間の観光客数の月ごとの割合の変化を示したものです。なお、熱海市はかつての湯治場から発展した首都圏有数の観光地であり、斜里町には世界自然遺産の知床があります。これをみて、次の問いに答えなさい。

表 3 3 つの地域における観光客数の月ごとの割合の変化



『京都市観光調査年報』、『静岡県観光統計データ』、『斜里町経済部商工観光課資料』

より作成

(注) 統計年次は、京都市と斜里町が 2006 (平成 18) 年、熱海市は 2006 (平成 18) 年度 (2006 年 4 月から 2007 年 3 月まで)。

- (1) 表 3 をみると、グラフ A で示される地域では、観光客が 7 月から 10 月に集中して訪れていることがわかります。グラフ A に当てはまる地域を、次のア～ウの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。また、他の 2 つの地域と比べて、特にこの時期に観光客が集中する理由を説明しなさい。

ア 京都市 イ 熱海市 ウ 斜里町

- (2) 表 3 をみると、グラフ B とグラフ C では、2 月・8 月・11 月の 3 つの時期で、訪れる観光客の割合に大きな差がみられます。グラフ B に当てはまる地域を、次のア～ウの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。また、そのように選んだ理由に関して、2 月・8 月・11 月の中から 1 つの月をとりあげて、一方の地域で観光客の割合が増加した理由を説明しなさい。

ア 京都市 イ 熱海市 ウ 斜里町

問 6 下線部⑥に関して、次の問いに答えなさい。

表 4 は、東京から大阪・静岡・福岡の 3 つの都市に向かう、航空機・新幹線・高速バスの 3 つの交通機関について、東京を出発する 6 時から 24 時までの 1 時間ごとの本数を示したものです。

(1) 表 4 の (あ) ～ (う) に当てはまる都市を、次のア～ウの中から、それぞれ 1 つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 大阪 イ 静岡 ウ 福岡

(2) 表 4 の (A) ～ (C) に当てはまる交通機関を、次のア～ウの中から、それぞれ 1 つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 航空機 イ 新幹線 ウ 高速バス

表 4 3 つの都市に向かう交通機関別の東京を出発する本数 (1 時間ごと)

方面	(あ)			方面	(い)			方面	(う)		
交通機関	(A)	(B)	(C)	交通機関	(A)	(B)	(C)	交通機関	(A)	(B)	(C)
6 時	3	0	3	6 時	0	1	2	6 時	3	0	5
7 時	3	0	2	7 時	0	3	3	7 時	3	1	8
8 時	3	0	2	8 時	0	3	3	8 時	3	1	7
9 時	4	0	2	9 時	0	3	3	9 時	2	1	9
10 時	2	0	2	10 時	0	2	3	10 時	4	0	7
11 時	3	0	2	11 時	0	3	3	11 時	3	2	6
12 時	3	0	2	12 時	0	2	3	12 時	3	0	6
13 時	2	0	2	13 時	0	2	3	13 時	3	1	6
14 時	2	0	2	14 時	0	2	3	14 時	2	1	6
15 時	3	0	2	15 時	0	4	3	15 時	2	0	7
16 時	3	0	2	16 時	0	5	3	16 時	3	0	8
17 時	3	0	2	17 時	0	4	3	17 時	3	0	8
18 時	4	0	2	18 時	0	4	3	18 時	2	0	7
19 時	4	0	0	19 時	0	4	4	19 時	5	0	7
20 時	3	0	0	20 時	0	2	2	20 時	2	0	5
21 時	0	1	0	21 時	0	0	3	21 時	4	3	2
22 時	0	0	0	22 時	0	0	2	22 時	0	10	0
23 時	0	0	0	23 時	0	1	0	23 時	0	3	0
24 時	0	0	0	24 時	0	0	0	24 時	0	0	0

『J R 時刻表』[2008 (平成 20) 年 5～6 月期] より作成 (定期便のみを掲載)

平成21年

社 会 解 答 用 紙

1

問 1	A	B	C	
問 2				
問 3	(1)	倍	(2)	(3)
	(4)			

2

問 1		問 2	
問 3	(1)		
	(2)		
	(3) (七里の渡) 写真 位置 (大井川) 写真 位置		
問 4	(1)		
	(2)		
問 5	(1) 記 号 理 由		
	(2) 記 号 理 由		
問 6	(1) あ い う (2) A B C		

受 験 番 号		社 会